

消化器内科

概要・特徴

熊本大学病院内科の臓器別診療科のひとつとして研修を担う。消化器疾患診療を基礎に、内科全般的な初期研修を提供する。消化器内科として、消化管、肝臓、胆・膵疾患の専門的診療に関する研修が可能である。内科診療領域の研修内容は広範に渡るため、随時研修医個人の研修状況を確認し、必要に応じて病院内の他科での研修も可能である。

I 到達目標

A 医師としての基本的価値観

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供および公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心をもって接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動および医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学および医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題点について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

8. 科学的探究

医学および医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学および医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、更新の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C 基本的診療業務

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患について継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画書を作成し、患者の一般的・漸進的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性および地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

II 実務研修の方略

1. **研修期間**：1年目は大学病院で研修を行い、2年目で協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設での研修を行う。
2. **研修を行う分野**：入院患者の一般的・全身的な診療とケア、一般診療で頻繁に関わる症候や、幅広い内科的疾患に対応した病棟での研修を含む。
3. **経験すべき症候**：外来と病棟において下記の症候を呈する患者に対して、病歴聴取、身体所見、検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
意識障害、ショック、体重減少・るい瘦、発熱、黄疸、吐血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便秘異常など
4. **経験すべき疾病・病態**：外来と病棟において下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。
急性胃腸炎、消化性潰瘍、食道癌、胃癌、大腸癌、肝炎・肝硬変、肝癌、膵炎、膵癌、胆石症、胆管癌、炎症性腸疾患など

研修医の担当する症例については、各疾患に対してそれぞれの専門医が指導に当たる。教授回診、新入院症例検討会、消化管、胆膵、肝疾患グループ検討会において、担当する症例を提示、説明することによって症例、疾患に対しての理解を深め、担当外の症例に関しては検討に加わることによって消化器疾患の全般的診療について研修する。医局会では、医師としての基本的姿勢についても研修する。

検査としては、腹部超音波検査、上下部消化管内視鏡検査、小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査、逆行性胆管膵管造影検査、腹部血管造影検査、肝生検等、治療としては、内視鏡によるポリペクトミー、粘膜切除術、乳頭切開術、胆道ドレナージ術、胆管ステント留置術、食道静脈瘤硬化療法・結紮術のほか、肝動脈カテーテル療法（肝動脈化学塞栓療法、肝動脈化学療法）、ラジオ波熱凝固治療・経皮的エタノール注入療法等を専門的に行っており、指導医のもとで研修に携わる。

勉強会として、研修医に対して行われる教官による消化器病セミナー、最新の医学論文に関する医局抄読会等から学術的知見を深めることも可能である。

1～3ヵ月研修では、医療面接、基本的な身体診察法、基本的な臨床検査に加えて消化器疾患全般に渡る基本的診療に関する研修が可能である。それに加えて4～6ヵ月研修では、腹部超音波検査、上部消化管内視鏡検査の基本的な手技、基本的な腹部画像診断に関して研修が可能である。6ヵ月超の研修では、超音波誘導下検査・治療（肝生検、ラジオ波熱凝固療法等）、下部消化管内視鏡検査、腹部血管造影検査に関する研修が可能である。

III 到達目標の達成度評価

当科での研修終了時に上記達成目標の各項目（I-A, B, C）について、医師および医師以外の医療職により評価する。

研修実施責任者

消化器内科長 田中 基彦

研修指導責任者（指導医）

（正）立山 雅邦、（副）田中 基彦

熊本大学消化器内科ホームページ

<http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/gastro/>